

仲間と学習する力を高める物語文の読み取り指導

～学び方を定着させた上での関連発言リレー方式～

精華小学校 保母 征之

1 授業改善の視点

- ・児童の学習への主体性を高める指導の在り方
- ・仲間の発言から自分の考えを高めていける指導の在り方

2 具体的な実践

(1) 1時間の学び方指導

単元の導入において、学習計画を立てる。その時間からこれから学習する読み取り学習の1時間の流れを提示する。

1時間の流れ

- ①本時の課題の確認（学習計画から）
- ②音読
- ③本時のキーワード交流
- ④個人追究（読み取り）
- ⑤発表訓練
- ⑥全体追究 → 関連発言リレー
- ⑦先生から
- ⑧まとめ



読み取りの第1時間目に流れを確認しながら、学習の流れと手段について確認する。

(2) 教師は基本的に話さない、待つ指導

読み取りの2時間目からは、教師からはあまり話さない。学習計画から本時の課題を板書し、児童が課題の確認をする挙手を待つ。それが終わったら、また音読を始めるまで待つ。次の活動を考えて自分から進めようとしている児童をほめ、価値づける。全員の音読が終わったら、キーワードの挙手があるまで待つ。そして個人追究7分。7分が終了した時点で、児童が自分は読みとった内容から伝えたい内容を選択し、2回発表の練習をする。これも待つ。それが終わったら全体交流のために挙手するのを待つ。

A 児童の挙手回数とまとめの評価

	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時
挙手回数	6回	11回	25回	33回	28回
まとめ評価	○	○	◎	○	◎

(3) ハンドサインを使っての関連発言リレー

全体追究の場面において、仲間の考えを捉えさせるために、前の仲間の発言にどこか関連付けて発表するようにルールを決めた。関連させる時にはハンドサインでチョキを出し、優先して指名することを児童に伝え、関連発言リレーがどこまで続くかチャレンジさせた。関連させるポイントとしては、

- ①前の人が読み取った本文との関連させて
- ②前の人が読み取った内容と関連させて
- ③前の子の感想や考えに関連させて

の3つを与えた。児童は、自分の考えと同じところ、ちがうところを意識しながら仲間の発言を聞くことができ、読み取りを広げていく姿につながった。あまり深まりがない時は、教師がリセットし、「他の視点からどうぞ」と声をかけた。

(4) 教師の出場の精選

全体交流で課題について大きく読みとったことを教師が整理した後に、本時のねらいにさらに迫るために、教師からの発問を位置づけ、もう一度児童が立ち止まって思考する場を設けた。ここでは、ねらいに迫る発言に対して、問い返しを行い、登場人物の様子や場面の様子について捉えられるよう指導した。



3 実践を振り返って考えられること

学び方指導は、児童が学習のやり方が分かり、見通しをもって学習に取り組む姿につながった。自分たちの力で授業を進めているという実感は、進んで読み取りをしたり、挙手発言したりするなどの意欲的に学習活動に取り組む児童の姿につながった。

関連発言リレーは、仲間の発言に耳をかたむけ、自分の考えと比較しながら聞ける力を向上させた。これによって、仲間と学ぶ楽しさを感じはじめている児童がいる。